

第12回企画運営委員会（11.3.23）のまとめ

第12回企画運営委員会は3月23日（水）に開催されました。

今回は、2月24日（木）に開催された「第4回福祉のネットワークづくり交流会」について意見交換を行いました。話し合いの内容は以下のとおりです（配付された資料とあわせてご覧ください）。

第4回福祉のネットワークづくり交流会（2/24）について

「まなびやニュース第6号」を配布し、内容を報告しました。

■参加された委員の感想

- 交流会後、宅配クック123さんに頼んでみようかと会で相談したが、500円×20個＝10,000円のために姥ヶ山まで来てもらうのは気の毒とやめました。
- 妻の弁当は飽きないのに、なぜ業者の弁当はあきるのか、疑問が残った。
- ボランティア亀田は出展できなかったが、全て手作りで作っている。家庭の味を大事にしている。
- 123さんは見守りという点でかなり考えているなど思った。
- 口腔ケアへの意識は20年前よりかなり高まっている。診療に行くのは外に出るきっかけとして、あまり訪問診療を進めていなかったが、これからは少しそういったものも見直す必要があるようだ。
- 地域の活動者が配食業者さんと出会えたことがよかった（なかなか情報は届かないため）。
- （パネルディスカッションで）結びつける人材が大事と聞きながら、まさに自分の仕事とドキっとした。

今後の活動展開についての意見交換

「福祉の学び舎事業」は次年度で3年目となるので、今後の活動展開について各々より意見を出し合いました。

- 木津のお茶の間では交流してもらえるところを募集しています。
- 他地区のいきいきサロンとの交流は、包括支援センターなどにニーズがあるかもしれない。特に新しく立ち上がる所など。要望があれば見学ツアーを行ってもいいかも。
- 何か次につながる事が出来るといい。できれば自然発生的になるように。
- もっと多く広く広がっていかないだろうか。
- 最初に年間スケジュールを出せるともっと皆さんに来て頂けるのではないか。
- 今までは江南区広域的に行ってきたが、地域に根付いて広がっていくには、もう少し地域単位で出前講座のような形で行っていったり出来るといいのではないか。

上記の意見交換をふまえ、次年度の活動のポイントとして下記のような点があるだろうと話されました。

↓

- 地域の福祉委員みたいな人を育て、地域で複数人で連携して活動していくような体制を作っていけないか。
- 亀田西中の生徒さんによるゴミ出しボランティアのように、一緒に連携してプロジェクトを行うことで関係性を深め、次につなげていけないだろうか。
- 子ども達へ何か出来ないだろうか。

以上です。今後も随時お知らせしていきますので、どうぞよろしく願いいたします。